

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル 笑明かり・咲明かり(笑)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	平成29年12月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2392200081-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援に力を入れ献立立案から片付け・洗濯・掃除・ごみ捨て等生活の中で個々の出来る事を探し力を活かしながら共に過ごしている。遠足・モーニング・ランチ等外出が多くあり気分転換を図っている。春祭りや運動会は準備から共に作り上げ、餅つき・会議・町内の祭りの休憩等でご家族や地域の方にご参加・ご協力頂き交流している。季節を感じれる花を見たり、蒲湯湯やおはぎ作成等昔なじみの行事も大切にしている。個々の想いに寄り添い答えられるように柔軟な対応を心がけている。個別で巡業や他施設お祭りに行った。今まで行ってきた事が継続出来るご自宅にいるように感じられるように努めその人らしく生活して頂けるようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの特徴として、ユニットケアを重視した取り組みがあげられ、日常の食事や外出行事をはじめ、家族との対応もユニット毎に行われており、ユニットでチームとしての支援が行われている。毎年秋に行われている、関連事業所との運動会の際には、家族も含めてユニットがチームとなって参加しており、各ユニットが大きな家族にもなっている。ホーム内には、多くの方が集う交流スペースが確保されており、定期的に行っているサロンには、多くの地域の方の参加が得られている。地域の方とは、ホームで開催している餅つきの行事にも参加と協力が行われており、地域の多くの方にホームを知ってもらう機会につなげている。また、ホームの向かいにある土地を駐車場として確保することができたことで、ホーム前の駐車場に余裕ができ、家族や地域の方が気軽にホームに訪問しやすくなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで唱和し確認したり行事のローガンは理念を元に考えられている。1人1人の想いに寄り添いその人らしく過ごせるよう努めている。理念が反映されているかケアの中で確認し実践に繋がるようにしている。	法人の基本理念をホームの支援の基本としており、利用者への尊重等、日常的に職員間で理念を意識する取り組みが行われている。また、職員についても、自身の振り返りの機会をつくり、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・外出時等に積極的な挨拶、町内のゴミ集めや春祭り・運動会・餅つき等の行事への参加・お祭りの休憩所としての利用等で関係を築いている。民謡・落語等ボランティアの訪問や週1回共有スペースでサロンを開いている	地域の方との交流の機会がつけられており、ホームから地域の行事への参加が行われている。また、ホーム内に地域の方も集うことができる交流スペースを活用した、定期的なサロンの取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事・会議等地域の方に参加頂きご家族やご利用者の意見、事業所の取り組み紹介やスーパー・喫茶店等外出先で積極的に話をして、様子を見て頂き交流を通じて理解と支援方法を深めて頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・長寿会・民生委員・役所・ご本人・ご家族に参加頂き、年に6回行事を含み行っている。活動を報告し、意見・要望・地域の行事内容の情報等話し合いサービスの向上に活かしている。	会議は併設事業所との合同で開催されており、各担当職員より資料に基づいて報告を行うことで、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議を通じて、ホームの行事に参加してもらう取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議や行事に参加して頂き、事業所の取り組みを伝えながら感じて頂き意見交換を行い関係作りに努めている。日頃の連絡は主に管理者やケアマネージャーが行い、協力関係を築いている。	市内の介護事業所が集まる連絡会や市の研修会等の際には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。また、併設事業所の職員を通じた情報交換も行われており、合わせてホームの運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学び職員同士情報共有しながら身体拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関の鍵は交通量が多い為施錠しているが「外へ行きたい」「車が見たい」等開錠し、館内はどこでも自由に行き来出来る環境にある。	身体拘束を行わない方針のもと、利用者の様子を見ながらリビング以外の場所で過ごすことができる等の対応が行われている。また、職員の段階に合わせた職員研修会が行われており、職員に合わせた利用者への対応に関する指導が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び理解に努めている。入浴時傷の有無・表情・気分等変化を観察し、ミーティング時に不適切なケアや異常がないか話し合っている。職員のストレス度合いも観察し職員間で情報共有をして虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している人はいない。日常生活自立支援事業や成年後見制度・法的な知識について理解している人は少ない。今後学ぶ機会を持つ必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が疑問点を1つずつ説明し理解を求めている。解約時、管理者・リーダーで連携を取り、ご本人・ご家族の想いを伺い話し合いをしている。改定時、家族会等開催し納得して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事・会議・面会時等にご利用者・ご家族の想い等を伺い反映に努めている。日頃から話しやすい雰囲気作りをしている。連絡帳や申し送り職員間で情報共有に努め管理者に報告している。	ホームの行事の際には家族にも案内を行い、多くの家族の参加が得られた交流が行われている。家族からの要望等については、管理者、リーダーで対応する体制がつくられている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回管理者と個人面談・ミーティング(フロア・行事・リーダー)で意見が言える。言えない人は文書でも聴いている。行事は企画からアイデアを取り入れ、ケア内容も職員が行いたい事が行える環境になっている。	毎月のユニット会議が行われており、ユニットリーダーを中心に職員間で意見交換を行い、様々な課題解決に向けた取り組みが行われている。管理者による職員面談の機会をつくりながら、ホーム全体の統括者として職員の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談で個々の状態把握に努め目標を決めている。定期的に目標の振り返り・要望等話し合い職場環境の整備を心がけ向上心を持って働けるようにしている。又ユニットで3か月に1回。全体で1年に1回食事会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	クラスを分け目標を掲げ内部研修をしている。外部研修は年1回事業所負担で行け力量に応じ勧められる事もある。研修後職員全員に紙面で報告、ユニット内で発表し知識向上を図っている。資格取得を個々に勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ施設内の研修・行事等で意見交換する場あり、質の向上に努めている。外部研修等で交流する場はあるが継続性がない。積極的に関係を深めていきたい。尾張地区のネットワークがあるが参加できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	想いを汲み取るように本人に寄り添い笑顔で明るく接し、不安を少しでも軽減できるようにしている。よく観察し早期に信頼関係が築けるようにしている。他者等の仲介にも入り安心できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時管理者が不安・要望等に耳を傾けている。笑顔で話しやすい雰囲気を中心に、小さな事にも耳を傾け安心して頂けるよう関係作りに努めている。職員間で情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の面会・初期の話し合いに必要なサービスを説明している。ご本人・ご家族の想い・希望を伺い、管理者と職員で話し合い他のサービスでも今その人が必要としている支援を見極め提供が出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に出来る事を考え1人1人が役割を持ちより良い暮らしが出来るようにしている。人生の先輩として子育て・生活の知恵等教えて頂いたり、不安な気持ちを聴いたり、得意分野を活かし共に支え合う関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等少しの変化を含め近況報告すると共に要望を伺い話が出来るように努めている。行事・外出等ご家族と共にゆっくりと過ごす時間がある。共に支えていく事を前提に安心して生活が出来るようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店・病院・美容室等にご家族やご友人と共に行っている。気軽に立ち寄れる雰囲気作りをし、共有スペース等で話している。会話の中から得た馴染みの店等に行く事もあり関係が途切れないようにしている	ホームで開催しているサロンを通じて、利用者の入居前からの関係の方との交流が行われている。行きつけの喫茶店や美容院を継続している方もいる。また、家族との外出も行われており、食事や買い物の他にも、親族の墓参り等を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人柄・能力・関係性等把握し席を決めている。職員が間に入り共に過ごしている。ソファで楽しそうに話をしたり、協力して洗濯物干しをしたり「あの人大丈夫？」と気遣われる事もあり、支え合える関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、今までの関係性を大切に、ご本人・ご家族が困らないようにいつでも来設出来て話しやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情・会話・態度等を見逃さないようにして想い・要望の把握に努めている。常に本人がどうしたいかと考え要望は連絡帳・ミーティング等で共有し実践出来るようにしている。	担当職員も利用者のアセスメントに関わることで、利用者一人ひとりの意向等の把握に取り組んでいる。また、ユニット毎にカンファレンスを実施しながら、利用者に関する独自の様式も活用したアセスメントを実施し、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートやご本人・ご家族の会話から暮らし方・趣味等の把握に努めている。今までの生活を大切に日記を書く・仏壇に花を添える等出来る事は行っている。その人らしく楽しく暮らせるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼寝・朝ゆっくり・夜テレビを見る等1人1人の過ごし方に合わせている。食事・排泄チェック等や表情・行動・バイタルから心身の変化を日々見逃さず職員間で共有している。作業やレクリエーション等通時力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望・要望を交え月1回のミーティングで介護計画に沿って気付きを話し合い見直し・変更をしている。状態変化時も話し合いながら今必要な介護計画立案に心がけよりよい生活が出来る様に努めている	介護計画は6か月毎の見直しが行われている。利用者毎に記録用紙を用意し、介護計画の内容に合わせた日常的なチェックが行われている。日常的なチェックを通じた、毎月のモニタリングを実施し、変化に合わせた見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画内容を記載し実践時チェックする事で意識付けしている。日々の気づき・変化・言動等5W1Hや色を変えて解り易くを心がけている。いつでも見て情報共有に努め介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の状態が変化中、その日その時に生まれるご本人・ご家族の想いに応えられるように管理者・職員で話し合いをしながら柔軟な対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパー・喫茶店・ゴミ捨て・散歩・行事参加で関係作りに努めている。ご本人利用の病院・美容室・店等にご家族や職員と行く事があり個々の地域資源の把握に努め豊かな暮らしが出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望で3名かかりつけ医でご家族と受診している。急な診察もご本人・ご家族に伺いながら受診している。往診医は月1回。病院と文章や電話等で連携をし適切な診察が受けられるように努めている	定期的な訪問診療が行われているが、利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続している方もあり、ホームによる受診支援も行われている。また、併設事業所と合わせて、複数の看護師が勤務している体制がつくられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に3回看護師訪問があり体調変化・気づき等報告・相談し指示を仰いでいる。お腹の音を聴いたり・爪切りも行っている。又、いつでも連絡出来る体制にあり、緊急時等も適切なケアが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書作成。電話でも対応している。定期的に他利用者と見舞いに行きご本人が安心出来ると共に、関係者と話して現状把握に努めている。退院時看護師・相談員より情報を聴きご本人・ご家族と話し合い安心して帰ってこられる環境を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時管理者から説明をしている。変化時等ご家族と話し合いの場を設けご本人の思い念頭に今後起こりうる事、事業所の出来る事・出来ない事等の説明をしている。臨時のミーティング開催する事もありご本人にとってよりよい生活が出来るように支援している	ホームでの看取り支援については、ホームでも前向きな取り組みが行われており、関連事業所と連携したターミナル研修の取り組みが行われている。利用者の段階に合わせた、家族との話し合いが行われており、意向に合わせた支援に取り組んでいる。	ホームでの看取り支援については、ホームで出来ないことも含めて、支援可能な内容の確認が行われている。看取り支援から時間が経過していることもあるため、ホームの継続した体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で学び、急変時等のマニュアルや連絡体制は目につく所にあり備えているが実際は経験が少ない為不安がある。いつ起きても職員全員が対応出来るように定期的に勉強・訓練を行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3か月に1度様々な想定から避難訓練を行っている。参加出来なかった人も周知が出来るように文書に残し確認をしている。全体や地域を巻き込んだ訓練が出来ていないので、協力を得られるように働きかけが必要	ユニット毎による3か月に1回の訓練と年1回の併設事業所との合同の訓練を実施している。運営推進会議等を通じた、地域の方との連携に取り組んでいる。また、備蓄品については水や食料の確保の他にも、独自に発電機の確保も行われている。	地域の方との連携については、日常的な交流を通じて、非常災害時の協力関係につながることを期待したい。また、水害を想定した、併設事業所との連携した取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、言葉遣い・態度に配慮し個々・場面によって声掛けを変えている。トイレさりげなく・自室のノック・申し送りの声の大きさや場所等常に本人の立場を考えた対応に努め職員間で指摘している	理念には、利用者への尊厳に配慮することを目指した内容が掲げられており、理念の唱和を通じた、職員間での意識向上に取り組んでいる。また、接遇に関しては、職員をクラス分けした研修会を実施しながら、職員の資質に合わせた振り返りが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ・外食メニュー・誕生日プレゼントや祝い方等ご本人の想いを聴きながら決定出来る様にしている。日常の会話から思いや希望を汲み取るように努め表現が苦手な方も初めから決めず引き出せるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に寄り添う事を優先し意向を伺ったり行動等見て過ごし方を1人1人に合わせている。館内を歩く・居室で休む・夕方は運動・外に行きたい等自由にその人らしい生活が出来る様に柔軟な対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装・髪型・髭・爪に気を配っている。洋服選び・整髪料・美容室・化粧やネイル等今までのようにその人らしいオシャレが出来る様にしている。職員が洋服管理している人もいるが、時計・指輪・カチューシャ等個々にアイテムがある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物等伺いながら献立作り～片付けまで個々に合わせて共に行っている。納豆より煮豆・パンよりご飯等好みの把握や駅弁・ランチ食べたいとの声に出かけ季節感・行事を大切に食事が楽しみとなるようにしている	ユニット毎にメニューを考え、職員により調理が行われている。利用者も、買い物、調理、片付け等、できることに参加している。季節等に合わせた行事食や外食の取り組みも行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1汁3菜の献立で食事・水分量をチェックし把握し個々にあった食事量の提供に努めている。無理に食べる・水分が足りない等声掛けしている。朝パンの方3名。梅干し欲しい方2名。栄養ドリンク飲む方等個々に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	何度も磨く・磨き方が解らない等個々に合わせ声掛けを行っている。その都度、磨き残しがないか確認をしている。義歯の方は週1回ポリドントを行い、希望者は訪問歯科を利用し掃除や指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、個々のパターン把握に努めトイレでの排泄が出来る様になっている。誘導時・失敗時等周りに配慮し声掛けに十分注意している。トイレに行く時を見逃さず扉に張り紙をして場所を迷わないようにしている	利用者の身体状態等に合わせながら排泄記録に残しており、日常的に職員間で申し送り等を通じて情報を共有し、トイレでの排泄につなげている。また、日常的にも食事内容を工夫したり、運動を行う等、排泄状態の維持に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日にシリアル入りヨーグルトか乳酸菌・バナナ・フルーツ・麦ご飯等工夫し提供している。トイレにゆっくり座る・整腸剤の調整・便秘の訴えある時ホットミルクを勧めお腹擦る・肛門体操等行い個々の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「ぬるま湯がいい」「今や嫌」等個々のタイミング・要望に沿い基本1日置きだが気にせず行っている。季節を感じられるよう菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用。音楽をかけ談笑しながらゆったり寛げて楽しめるようにしている	月曜日から金曜日を基本に、利用者が1日おきに入浴できるように実施している。併設事業所に機械浴があり、重度の方にも対応している他、ホームでも職員複数での介助も行われている。また、入浴剤や季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時・場所で休める環境作りをし無理なくベッドで休んで頂いている。有線や音に配慮し時間(昼寝・就寝)室温・照明等個々に合わせ安心して眠れるようにしている。寝方は解らない方は一緒に横になっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を把握し効能・副作用等の理解に努めている。変更時は連絡帳等で情報共有をし変化の観察をしている。セットは複数で確認。服薬時名前・日時を復唱し飲み込みまで確認をして誤薬がないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートやご本人・ご家族の会話から楽しみ等知る事に努めている。お菓子食べる・将棋・俳句等個々の楽しみや掲示物の作成・家事等一人一人の得意な事を理解し自宅にいたると思える生活を目指している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩・ランチ・モーニング・月1回の遠足等があり、行き先は要望を伺い季節感を大切にしている。ご友人・ご家族とも結婚式等出かけている。「喫茶店行きたい」等個別でも柔軟に対応し他施設のお祭りやご家族の協力で相撲の個別で相撲の巡業にも行けた	日常的に近隣への散歩の他、ホーム前に新たに畑をつくったことで、利用者の外出にもつながっている。年間を通じて外出行事が行われており、ユニット毎に外出先を検討する取り組みが行われている。また、利用者の希望に合わせた外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員側で管理しているが支払い・出納帳記入時共に行いお金を触る機会はある。個人所有の方はみえないが、ご自分の財布を持ち買い物時支払う事はある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ、自由に手紙や電話が出来るように努めている。手紙や年賀状の返事や電話は時間帯に配慮しつつ話しやすい環境作りをしている。行事の招待状もご本人にコメントして頂きやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動に合わせて音楽を流し常に清潔に心がけ館内温度差が無いようにしている。廊下やフロアに季節感を取り入れた飾り・写真・壁画等掲示しご利用者同士で話したりご家族等に様子を伝えている。1人1人の居心地のいい空間作りをしている	リビングはゆったりした広さが確保され、窓が大きく採光に優れていることで、利用者が日中を明るい雰囲気でも過ごすことができる生活環境である。また、リビングに続く通路には、季節の飾りや利用者の作品等、様々な飾り付けが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに食卓スペースとソファとテレビの空間があり、ゆったりとどこでも寛げるようになっている。他者と話す・居眠り・ゲーム等思い思いに過ごせるように心がけている。共有スペース・他ユニットに自由行き来でき温かい環境にある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・布団・仏壇・お位牌・ご家族写真等個々に馴染みの物を持参している。塗り絵・折り紙等作品を飾っている方もいて、個々の空間を大切にご本人が居心地良く安全に過ごせるようにご家族とも相談して行っている	居室には、利用者の好みの物や入居前からの愛着のある物が持ち込まれてあり、利用者の意向に合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドが備え付けとなっていることで、利用者の身体状態に合わせた支援も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札・名前シール(椅子・机・下駄箱)等して混乱防止している。館内はバリアフリーで至る所に手すりがあり階段も昇れる。個々の解る事の把握に努め安全で自立した生活が送れるようにしている		